

## 預金金利 100 倍に！

いよいよ夏本番で暑い日々が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？7月1日の山開きの日に富士登山を行いました。夏とはいえ、頂上付近の気温は5°C位、強風のため正直寒かったです。あいにくの悪天候ながら頂上までなんとかたどり着きましたが、いわゆる「お鉢めぐり」（頂上の噴火口の周りを回る）は断念しました。日本一高い所にたどり着いたという実感がないうまま下山したのですが、ご来光といわれる富士山からの日の出を見ることができたのは感動的でした。

さて、14日に日銀がいわゆる「ゼロ金利解除」を実施しました。これは5年4ヶ月ぶりのことで、今年の3月に実施した「量的金融緩和政策」の解除に続く大きな金融政策の転換となります。では、「ゼロ金利政策」とはなにか。銀行など金融機関は資金をお互いに貸し借りしていますが、借りた翌日に返す際の金利を「無担保コール翌日物金利」と呼び、その金利を実質0%になるように日銀が誘導することを「ゼロ金利政策」と言います。日銀は短期金利を上げ下げすることにより景気をコントロールしています。金利を下げれば企業や個人がお金を借りやすくなるので、景気を刺激することになり、逆に金利を上げれば借入に慎重になるので、景気の加熱を冷ますこととなります。

いずれにせよ、今回のゼロ金利解除は、私達の暮らしにも大きく影響を及ぼします。メリットとしては、預金の金利が上がることです。大手銀行では相次いで普通預金の金利を従来の0.001%から0.1%に引き上げました。大手銀行の普通預金金利引き上げは6年ぶりのことで、上昇率ではなんと100倍です！とはいうものの、上昇幅でいうと+0.099%となり、100万円を1年預けた場合の利息10円が1,000円に増えるという、まだまだ小幅の上げとなります。あと、生命保険の予定利率が上がります。一部の生命保険会社では一時払い終身保険などの予定利率を引き上げ（保険金に対する保険料の引下げ）を実施し、より貯蓄性に適した内容になりつつあります。

一方で、デメリットとしては、借入金利の上昇です。企業の既存の借入金の金利負担が増加（変動金利の場合）することになります。又、借入を伴う新規の設備投資には慎重になります。現に国民生活金融公庫（通称「国金」）の金利が今月より0.2%上昇し、2.65%となりました。実に1999年1月以来7年半ぶりの水準となります。家計において一番影響があるのは、住宅ローン金利の上昇です。運用にまわせる余裕資金があれば、繰上げ返済にまわすとか、変動金利型から長期の固定金利型へ切り替えるなどの対策が必要となります。

期待と不安が入り混じる今回の「ゼロ金利解除」ですが、今後も長い目で見れば金利が緩やかながらも上昇していく可能性が高いことを考えれば、資産運用なども見直しが必要となります。預金は、今後の金利上昇の恩恵を受けられずに、途中解約できない長期の固定金利型を避け、変動金利型にするなど。個人向け国債は、購入時は5年固定型のほうが若干金利が高いのですが、今後の金利の上昇を考えれば10年変動型のほうがいいでしょう。25兆円ともいわれるタンス預金が大きく動くことになりそうですが、目先だけでなく、長期的な視点から資産運用することが重要です。

ところで、今回ゼロ金利解除に踏み切ったのは、各種指標から景気が回復から拡大へと転換したことや、デフレ脱却により、景気過熱や物価上昇を未然に防ぐためとのこと。異常な低金利がいよいよ正常な状態に向かいつつあるのか。一方で「今年の夏のボーナス3年連続過去最高更新」との新聞報道もありました。私達、まだまだ厳しい状況が続く中小企業に関わる者からすれば、まるでよその国の経済状況を見聞きしているような昨今の報道内容であります。

商店街の空き店舗の増加などみる度に、なにか、多くの個人商店や中小企業が景気回復から取り残されているというか、おいてきぼりになっていっているような気がします。よく「格差の拡大」といわれますが、いまさらながら商売を続けることのむずかしさというものを痛切に感じる今日この頃です。しかし、中小企業でも更なる業績を拡大しているところは数少ないですがあることも事実です。中小企業の最大の武器は機動力ですから、頑張っって困難を乗り越えることを願っています。